豊野町の歴史　目次

口　絵（解説）
緒　言
例　言

第一章　原始・古代の社会

第一節　草原と森の狩人の活躍

一　草原の狩人旧石器人……3
ヒトの誕生　わが国最初の旧人　豊野町最古の住人
石刃技法の文化　森の狩人の出現

二　照葉樹林に生きた縄文人……7
土器の発明　縄文人の食と住　尖り底の土器
縄文文化の高まり　上浅野遺跡の環状集石群
縄文文化の隆盛　縄文農耕論　縄文交易
石造構造物の構築　縄文文化の終焉

第二節　稲作農業のはじまりと古墳の出現

一　稲作農業のはじまり……18
弥生文化の成立　善光寺平最初の米作り
弥生文化の発達　栗林式土器文化圏の成立
南北二大文化圏の対峙

二　古墳を築いた人たち……25
古代の古墳　古墳時代の幕明け　大和政権の地方統治
信濃の最初の首長墓　善光寺平南部首長の誕生
河内王朝の成立　中小首長墓と積石塚古墳の登場
三才前方後円墳と豊野町の集落遺跡
伊那谷南部の首長墓と古東山道
横穴式石室の採用と後期古墳　積石塚古墳と渡来人
豊野町の後期古墳　八雲台一号古墳の被葬者
南曾峯古墳と地方官人　古墳時代後期の人びとの生活

第三節　大和王権下の水内

一　大和王権の地方支配……44
屋代木簡の出土と地域史　国造制の成立

二　善光寺平の国造と部民……45
阿蘇氏系図への疑問　金刺舎人氏と他田舎人氏
善光寺平の氏族

三　「シナノ」の変遷……48
シナノの意味　シナノの表記

第四節　大田郷の時代

一　律令国家の成立……50

科野国の成立　科野国から信濃国へ
二　水内郡の歴史的環境……54
律令国家の郡と郡司　信濃の中心のひとつ水内郡
水内郡の遺跡と遺構　豊野町の地形と景観
三　水内郡大田郷……61
大田里から大田郷へ　大田郷の領域と条里的遺構
律令制の税制　大田郷の芥子
第五節　大田郷から太田荘へ
一　平安時代の水内郡……67
東国社会の変動と北信濃　地域の再開発の発展
新興有力者の台頭
二　郡郷支配の変化と荘園制……71
信濃の初期荘園　王朝国家の成立　荘園公領制の成立
三　太田荘の生活……76
太田荘の成立　僧定寛書状　納殿と御倉　太田荘と田堵
ふるさとを離れた出土品……84
第二章　中　世　太田荘の移りかわりと郷村の生活
第一節　鎌倉時代の太田荘
一　太田荘と地頭島津氏……87
源平の争乱と太田荘　島津忠久の地頭職補任
太田荘地頭職を伝領した島津一族　越前島津氏
島津氏の九州下向と質入れされた津野郷
伊作島津家の本宗家からの独立　太田荘の女性領主
地頭代・被官たちの活動と輸送年貢
二　金沢称名寺の太田荘支配……97
霜月騒動と得宗専制　金沢北条氏と太田荘
太田荘でおこなわれた検注　金沢称名寺による開発
地頭島津氏の開発　鎌倉時代後期の称名寺による郷支配
第二節　南北朝・室町時代の太田荘
一　南北朝前期の太田荘をめぐる情勢……106
鎌倉幕府の滅亡と建武新政権の誕生
大倉郷地頭職相論の始まり　相論の経過
信濃島津氏の登場と高梨氏
尊氏政権と信濃守護小笠原氏
二　観応の擾乱と太田荘……112
観応の擾乱の終息と大倉郷相論　大倉郷訴状連券の作成
島津本宗家による地頭職回復
領家職を得た東福寺海蔵院
三　北信濃国人領主連合の成長……116
守護斯波氏による領国制の強化
信濃島津氏と二宮氏との対立　長沼太郎国忠の立場

四　大塔合戦……119
小笠原氏の入部と島津氏の反発　大塔合戦
信濃の幕府料国化　将軍による島津・高梨の当知行安堵
小笠原政康の信濃守護職　結城合戦と北信濃国人層
室町時代の太田荘

第三節　戦国時代の太田荘

一　戦国争乱のはじまり……127
諏訪社頭役と太田荘域の領主
越後永正の乱と高梨氏の台頭　中野遺臣の反抗と島津氏
長尾・高梨と島津ら北信濃国人の対立
二　長沼築城……132
武田氏の北信濃侵攻「島津堺」の争奪　長沼築城
長沼城の構造　長沼在城の武士と周辺の住人
三　天正十年「芋川の乱」……141
武田氏滅亡と長沼城　森長可の海津入城
一揆勢大倉城にたて籠もる（大倉城と大倉氏）
一揆勢力と一向宗門徒　本能寺の変と森長可の西上
四　上杉景勝の支配……147
諸将の服属　長沼城主島津忠直
河北郡司としての島津忠直　軍事基地としての長沼城

第四節　中世太田荘における宗教と文化

一　旧仏教の展開……153
在地領主層と寺院　鷲寺経塚と遍歴する聖
二　島津氏領と寺院……156
伊作島津氏と禅宗　太田荘内の島津氏と寺院
三　金沢氏・称名寺領と寺院……159
称名寺僧の往来と北信濃　石村郷の神護寺
大倉郷と極楽寺
四　真宗の伸長と太田荘……165
北信濃における真宗の拠点「磯辺六ヶ寺伝承」の虚実
五　神祇信仰と村落生活……168
熊野信仰と武士層　諏訪信仰の展開　官社の中世的展開

第五節　太田荘をとりまく地域社会の変貌

一　太田荘をめぐる遠隔地間交流……173
太田荘と平安京　太田荘と越後・陸奥の摂関家領荘園
善光寺門前町の形成と交通体系の変化
太田荘と鎌倉・薩摩との交流　太田荘の鎌倉文化
和田氏と越後平氏の交流　信濃・越後の御家人の交流
鎌倉―太田荘―加賀―京都―伊勢―鎌倉の縦断路
二　信濃島津氏・高梨氏の台頭と将軍・鎌倉府……180
所領の当知行をめぐる争い
国人島津国忠と高梨経頼の登場
太田荘をめぐる守護と国人一揆　真宗寺院の長沼進出

三　関東・越後争乱と島津・高梨氏の発展……182
関東争乱と島津・高梨氏　越後内紛と高梨・村山追討令
島津氏と高梨氏との対立　島津・長尾氏との同盟
四　戦国大名による地域経済圏の変革……186
島津氏の長沼退去と武田氏の長沼城築城
善光寺門前の荒廃と長沼城下の発展
織田軍と長沼城・大倉城の攻防戦
島津忠直の長沼城主就任　宿駅整備と神代宿の発展
五　地域における自然と生産条件の変遷……189
山間地・山麓・河川・中州での特産品生産
特産品の麻布・馬・鮭　自然堤防・氾濫原への進出
長沼島・村山での雑穀栽培・猛将鬼武蔵の最期
まぼろしの寺「聖林寺」……194

第三章　近世一　江戸時代の支配と村のなりたち

第一節　豊臣氏の支配から幕藩制へ
一　豊臣政権の支配……197
上杉景勝の国替え　豊臣大名の配置と太閤検地
太閤蔵入地
二　森忠政の入封……202
森忠政の配置　右近検地と土豪一揆
三　松平忠輝の支配……205
忠輝領と大久保長安　忠輝領の推移と諸領の成立
白坂峠と北国街道

第二節　長沼藩と飯山藩の成立と推移
一　長沼藩の成立と解体……211
佐久間氏の長沼入封　所領の分知と改易
領政と黒姫山論　赤沼知行所の惣百姓訴状
二　松平氏飯山藩……221
飯山藩主の推移　松平忠倶の治政

第三節　村の形成と百姓
一　寛文・延宝の検地と村の成立……224
検地の仕方　飯山領の検地　長沼領の検地
二　新堰と新田の開発……233
用水堰の開発　堰奉行の野田喜左衛門
新田の検地と新田村　新田開発の終わり
三　年貢諸役と百姓……244
永井氏時代の村のようす　青山氏の治政
元禄ころの年貢・諸役
佐久間家の悲運……256

第四章　近世二　村の推移と村びとの暮らし

第一節　本多氏の飯山藩政

一　本多氏の飯山入封……259
本多氏と飯山入封事情　村替え
二　本多氏の領内支配……262
本多家家臣団と藩制機構　法度支配　領内支配
本多氏の年貢
三　藩政の変質と百姓騒動……269
飯山藩の百姓騒動　義民八右衛門
元文の惣百姓箱訴　貨幣経済と藩財政のいきづまり
安永二年の惣百姓一揆　文化の百姓一揆
四　幕府領の支配……277
長沼・飯山領跡地のその後
享保九年以降の中尾村代官支配　幕府領の支配機構
中尾村の年貢　貢租の変化と百姓の抵抗
松代藩の預り所　預り所の支配　中尾新田

第二節　農業と諸稼ぎ

一　御林と百姓割山……293
入会山の利用　浅野村の山手籾負担　御林の利用
百姓割山　山仕事のおきて　山割りの手法
二　鳥居川の水利用……305
用水堰　渇水対策　水害と水車
三　農作業と肥料……311
農事暦と稲の品種　坪刈り検分と稲刈り・脱穀
刈敷と馬屋肥　農具の多様化　大小麦作
綿・菜種と養蚕
四　水害と飢饉……326
多発した災害　戌の大満水　千曲川の治水
天明と天保の飢饉
五　地主経営と小作人……339
田地の質入れ　地主の経営　小作料と小作証文
六　商品流通と諸稼ぎ……347
農村とお金　造り酒屋　商売の仲間　村の職人たち
出稼ぎ奉公人

第三節　街道と宿場

一　飯山道・善光寺道……356
飯山街道　街道の宿場
二　北国往還松代通り……360
馬継場指定　馬継村定　雨降り宿
三　神代宿の助郷……365
大助郷の村々　助郷の人足たち

四　川東道……369
浅野の舟場　塩荷事件
五　旅と旅人……373
信仰の旅　江戸への旅

第四節　村の移り変わり
一　村のしくみ……379
村の三役　役家と水呑　村寄り合いと村定め
二　家数と人数……385
飯山領の人数　豊野町域の家数と人数
家数と人数の推移　通婚圏　縁組と持高
三　被差別部落……393
被差別部落の成立　任務と権利　土地所持と年貢
家数と人数　さまざまな差別

第五節　暮らしと文化
一　衣・食・住……402
麻から木綿へ　嫁入り衣装　衣類の多様化
日々の食事　祝儀・仏事・接待の膳　小百姓の家の独立
家普請　明治初年の家屋敷
二　信仰と祭り……415
村の氏神　諏訪社　伊勢社　延喜式内社　いろいろな神
村の寺と堂　真宗寺院　禅宗の寺院と修験　寺院と檀家
民間信仰　村祭りと若者たち　遊び日
三　村の学芸と娯楽……431
寺子屋の普及　寺子の入門と学習　和算の伝統
俳諧のひろがり　いけ花と謡曲

第六節　幕末の情勢と民衆
一　天保の浅野騒動……442
騒動の経過　一揆の要求と藩の対応　騒動の吟味
九兵衛の召し捕りと処刑　先の庄屋の借財
浅野村の立て直し
二　善光寺地震……456
震災の状況　飯山藩の救済策と村民の災害復興
三　幕末の動乱と和田宿助郷……461
異国船の来航と飯山藩　和宮の下向と和田宿助郷
文久の改革と街道騒然　長州征伐と幕末の世相
延徳たんぼを漂流した話……470

第五章　近代一　近代社会のなりたちと地域

第一節　維新の変革
一　飯山戦争……473

東征軍をめぐる動き　飯山戦争と松代藩兵
北越出兵と官軍の通過　官軍の帰国と神代・浅野宿
二　宿駅制度の改革と中野騒動……481
助郷の組替えと村々のうごき
駅通議定書と浅野宿・神代宿　中野騒動と川西の村々
神仏分離令と村々の対応　明治天皇の北陸巡幸
寺堂廃却と旧習禁止
第二節　飯山県から長野県へ
一　新しい村と役所……490
伊那県設置と中尾村の移管　廃藩置県と長野県の成立
戸籍区の設置　壬申戸籍　民費
二　大区小区制と豊野村の発足……497
大区・小区制　神代・中尾両村の合併
三　戸長・連合戸長と上水内郡の発足……499
戸長役場の設置と戸長の公選
上水内郡の発足と連合戸長役場
四　新しい産業……503
油沢の石油採掘　農牛馬貸付会社　養蚕と蚕種
第三節　地租の改正
一　壬申地券と地租改正……508
壬申地券の発行　地租改正事業の実施
二　地位の決定と地価の修正……511
浅野村等の地位引下げ嘆願　地租改正の結果
第四節　駅逓・郵便と警察
一　通運会社と郵便局……514
神代駅通運会社　浅野継立所と水路通運会所
中牛馬会社蟹沢継立所　道路の整備と人力車の登場
立ケ花の船橋　浅野郵便取扱所
二　警察と徴兵令……519
警察屯所の設置　徴兵令と西南戦争
第五節　治水と灌漑
一　千曲川の掘り割り……523
千曲川の治水　上今井の湾曲　新川の掘削
二　灌漑用水……526
鳥居川の水利用　石村堰三カ村
第六節　近代教育のはじまり
一　学制による学校の設立……529
学制の布達と学区の制定　学区取締と学校世話方
学校設立への動き　学資金と寄付金　就学の奨励
教員の任用

二　教育令による教育……536
郡制の施行と教育行政　校舎の新築　訓導と授業生
裁縫科と試験
三　七カ村連合浅野学校……543
第八番学区の学校　尋常小学校の発足
石油掘りの技術……548

第六章　近代二　神郷村と鳥居村

第一節　神郷村と鳥居村の発足
一　町村制の施行……551
町村合併の推進　合併の経過　神郷・鳥居両村の誕生
村会議員と村役場　村の財政
二　流行病と衛生対策……560
明治十二年のコレラ流行　明治十九年のコレラ流行
衛生組合　隔離病舎
三　消防組の設置……566
私設消防組の成立　公設消防組の発足　消防組の活動

第二節　鉄道の開通
一　信越鉄道の建設……572
中山道鉄道計画と鉄道直江津線　用地買収と敷設工事
鉄道工事と地元民
二　川東への玄関口豊野停車場……576
豊野への連絡道　駅前商店街の成立　飯山鉄道の開通
豊野停車場の盛衰

第三節　暮らしと戦争
一　日清戦争と村人……587
不本意な開戦　戦争への協力と犠牲
二　日露戦争と民衆……589
軍国主義への道　戦勝を祈った農村
三　日清・日露戦争前後の村のうごき……593
軍事費の膨張　続発した災害　千曲川と鳥居川の水害
晩霜の被害　神社の格づけ　神社の統合

第四節　勧業政策と村の産業
一　殖産興業と勧業会……599
勧業策の推進と勧業会　農会　産業組合
二　養蚕業……603
自家用の養蚕　養蚕の普及　蚕種と桑木と肥料
鳥居製糸会社
三　在来農法の改良……607
特有作物の栽培　煙草の栽培　馬耕の普及

稲の品種更新　改良苗代　金肥の普及　地主と小作人

第五節　教育と文化

一　尋常高等小学校と補習学校……617
村立小学校の開設　就学の奨励と子守学級
組合立の高等小学校　鳥居村の小学校の新築
神郷村の校舎の増築と新築　基本財産の蓄積
学校衛生と学校医　国定教科書と郷土学習
学校の儀式と行事　校訓と校歌　家庭通知と父兄懇談会
実業補習学校　青年訓練所

二　青年と婦人の組織……635
若者組から夜学会へ　同窓会の設立　同窓会の事業
青年会の活動　神郷図書館　婦人会と女子青年団

三　大正デモクラシー……651
米騒動と米の安売り　解放への胎動
鳥居小学校の自由画教育　鳥居村の農民美術
同盟休校に発展した学校位置問題……664

第七章　近代三　第二次世界大戦前後の鳥居村と神郷村

第一節　昭和恐慌下の村

一　農村不況……667
信濃銀行の破綻　養蚕不況　北農の存廃問題

浅川の大改修と溜め池工事　水害と長沼地震

二　農村の経済振興策……676
経済更生運動　丹霞郷と神郷音頭　村塾運動の展開
地方改善事業　国民融和運動

第二節　戦時体制下の村

一　村の財政……686
村税の滞納処理　村財政と税金　村の歳出

二　大戦と村の暮らし……691
銃後後援会　食糧の増産確保　防空とラジオ
国民精神総動員　本土決戦体制

第三節　敗戦と民主主義

一　戦時体制の解体……700
敗戦と国家主義教育の排除　公職追放
食糧危機とインフレ　高値で売れたりんご　生活改善

二　農地改革と上神代の開拓……712
占領政策と農地改革　農地制度改革の徹底　農地委員会
農地の買収計画　買収にあたっての諸問題　解放の成果
改革のもたらしたもの　上神代の開拓　終戦直後の農業

三　戦後の民主改革……727
新憲法の公布と婦人参政権　第一回統一地方選挙
村財政の確立　新警察制度の発足

賛育会豊野病院の開設　清風園と老健施設ゆたかの

四　新教育の発足……739

新学制と六三制の発足　教育委員会の設置

茨洋裁塾から豊野女子学園へ　自主的文化活動の高まり

公民館の発足と活動の進展　社会教育団体の活動

青雲の志をとげた男……756

第八章　現代

豊野町の成立と発展

第一節　豊野町政の展開

一　豊野村の発足……759

三カ村合併案から二カ村合併へ　鳥居村と神郷村の合併

二　豊野町の誕生……763

町制の施行　役場庁舎の新築　統合中学校の建設

消防組織と道路・橋梁の整備

三　広域行政と豊野町……769

長野市合併問題　豊野町総合基本計画の策定

豊野町役場の新庁舎

第二節　産業の振興

一　農業の近代化と変貌……775

農業構成と農業経営の変化　農業人口の推移

農地の改廃　土地の基盤整備　畑地かんがい施設

果樹主業地帯への発展　農業の機械化と共同化

出荷体制の近代化とりんご業者

農業協同組合の統合と発展

二　豊野町工業の変貌……794

企業の進出と展開　工場誘致条例と工業団地の造成

三　豊野町商業の推移……802

戦前・戦後の商工会　豊野町商工会の誕生と会館の建設

商店街の沈滞　大型小売店と商店街　商店街の活性化

第三節　社会生活の充実

一　生活環境の改善と公害問題……809

上水道の建設　環境美化運動とゴミ処理

公害と住民運動　公共下水道の建設

有線放送の設置と統合

二　防災対策の充実……821

水害のない町づくり　消防団と広域行政消防

新潟地震と松代群発地震

三　社会福祉事業の展開……829

保育所の建設と統廃合　社会福祉施設のさきがけ水内荘

進む高齢化対策　老人福祉施設の整備　町の人口の推移

人口構成の推移

目　次

第四節　教育と文化
一　学校教育……843
統合後の中学校の発展　小学校の施設整備と校舎改築
学校同和教育と解放子ども会
二　社会教育……852
公民館の合併　青年学級　婦人学級　部落解放の推進
青年団活動の高揚と衰退　連合婦人会の誕生と活動
生涯学習の推進　文化振興協会の設立と活動
豊野町のシンボル……870
『豊野町の年表』以後の主なできごと……871
写真・図版・表一覧……891
執筆者名簿……892
あとがき……893

題字　町誌刊行委員長　萩原　秋夫

『豊野町の歴史』豊野町誌２　正誤表

４４０頁の表の内　　神代村の分

神代	福澤　富五郎	明和２～文政 11（1765－1828）	書
神代	藤澤　富士蔵	明和５～天保 15（1768－1844）	華
神代	藤澤十郎兵衛	明和７～天保５（1770－1834）	俳歌
神代	藤本　園三郎	？（文政年間）	画
神代	善財　喜四郎	寛政６～安政６（1794－1859）	寺子屋
神代	富士　乾折	寛政７～天保 12（1795－1841）	寺子屋
神代	園田　良蘿	寛政 10～明治３（1798－1870）	寺子屋

お詫び　　校正中に表にズレが生じていたのに気づか

申し訳ありませんが上のようにご訂正くだ